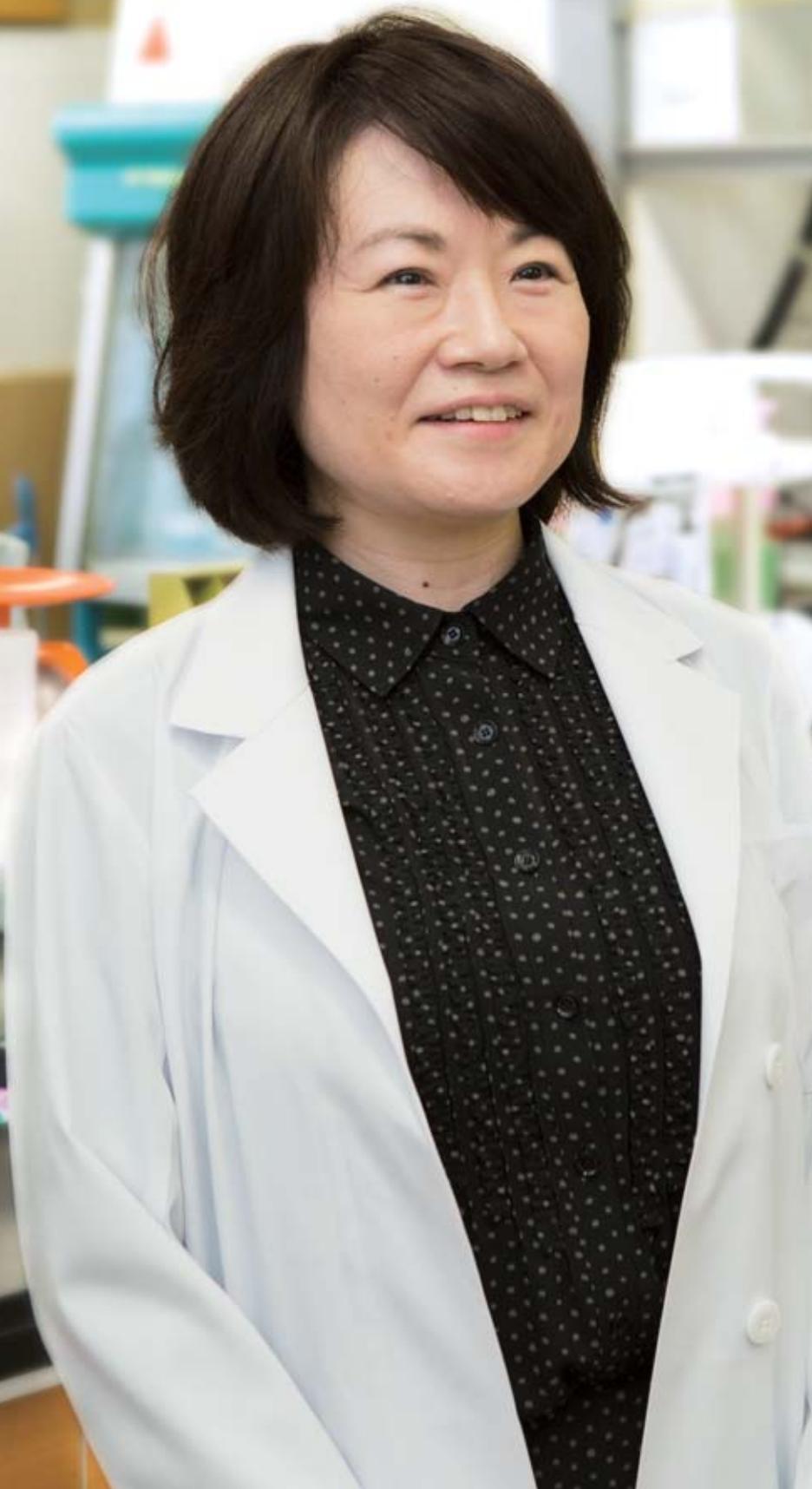


CLOSE UP  
クローズアップ



金城学院大学 薬学部薬学科

# 奥村典子教授

岐阜薬科大学製造薬学科卒業後、同大大学院薬学研究科博士前期課程修了。博士(薬学)。岐阜薬科大学助手、京都大学大学院農学研究科研究員、米国アリゾナ大学化学科研究員などを経て金城学院大学薬学部准教授、14年に教授就任。研究テーマは有機化合物および有機金属錯体の酸化還元挙動の分析。

# 自分で考える力を身に付け、変化を恐れず

## 興味のある研究や学びを通して社会貢献できる人に

国内外の研究の第一線で活躍されてきた経験に基づき、「自分や周りが変化していくことを恐れず、やりたいことにチャレンジしてほしい」と学生を励まされる奥村典子先生。

「真面目に・楽しく」をゼミのスローガンに掲げ、薬学を学ぶことで考える力や生涯学び続けていく力が身に付くことを学生たちに伝えつつ「自分が興味のあることを通じて社会に貢献できる人になってほしい」と日々、指導にあたられています。

### Ⅰ 薬学を通じて生涯の研究テーマに出会う

もともと物理が得意で理系の大学で学びたいと思い、国家資格が取れる薬学部を選びました。高校時代はハンドボール部で頑張っていました。大学ではバスケットボール部に所属し、勉強とスポーツを両立した学生生活を送ることができたと思います。

研究の面白さに目覚めたのは大学4年生のときです。薬品分析化学講座という研究室に配属され、生涯取り組むことになる電流電圧曲線の測定を手法とする有機化合物の酸化還元挙動に関する研究に出会いました。先輩たちが先生方と実験や研究に打ち込む姿を見て感動したのを今でも鮮明に覚えています。

私が取り組んでいる研究は薬学の中でも基礎研究です。基礎系の分野は物を作る、あるいは物の性質を明らかにするために必要となります。薬学はいろいろな研究分野がある裾野の広い学問です。「理科が好きだけど何をやりたいのか分からない」と思っている学生にとって、薬学は必ずやりたいことが見つかる分野だと思います。

また薬学の魅力はさまざまなことが学べるということ以外にも「自分で考える力・生涯学び続けていく力」が身に付くことだと思います。たとえば薬局や医療の現場に就職すれば、新しい薬が絶え間なく出てきますので勉強し続け

なくてはなりませんし、薬以外にも多くのことを学ばなくてはならないでしょう。学び続ける力があれば一生成長し、変わり続けることができます。ぜひ学生にも自分自身変わり続けていくことを恐れないで頑張してほしいと思います。

私自身も昔は自分のことが中心でしたが、時を経ていろいろな経験を重ねるうちに人に感謝できるように変わりました。研究を続け、恩師から指導

やご縁をいただいたおかげで今の自分があり、それぞれの場所で大切な先生や先輩、仲間に出会うことができましたと思います。当時は辛いと思ったことも、今では自分にとってプラスになっているということを実感しています。感謝することが増えること、それはとても幸せなことだと思います。これからも感謝する心を忘れずに、研究や学生の指導に努めていきたいと考えています。

### Ⅱ 興味のあることを見つけ、将来活躍できる人に

理系の研究や実験はみなで分担し、まとめて発表することがほとんどです。ゼミでも、私が取り組んでいるテーマについて共同研究という形で学生が実験を担当し、学会で発表してもらうことがあります。学生にとっては学ぶことだけではなく、仲間と協働する力が身に付くよい機会だと思います。

またゼミのスローガンは「真面目に・

楽しく」ですが、それは「幸せになるためのトレーニング」でもあります。ゼミ生の最大の目標は、興味のあることを通じて将来社会貢献できる人になること。研究や学びを通して興味のあることを見つけ、しっかりと自分の人生を歩んでもらいたいと願っています。5年後、10年後の卒業生たちの活躍を楽しみにしています。

#### 奥村先生はどんな人!?

研究室の4、5、6年生に先生の印象を伺いました。すると「優しさに満ちあふれている」「面倒見がよくて親しみやすい」「なまけているときは厳しく指導してください、落ち込んでいるときは励ましてください」といった声が聞かれました。また「学生のために集中できる環境を作ってください」「研究熱心で尊敬しています」と学生から信頼される温かなお人柄が窺えました。

